

ESG説明資料

2024年12月

2024 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数



FTSE4Good



FTSE Blossom
Japan



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

■ アジェンダ

1. マテリアリティに紐づいた K P I
2. R O I C 経営について
3. 外部からの評価

1. ESGマテリアリティに紐づいたKPIの公表

サステナブルで住み続けられるまちの実現 ~2050年事業活動に伴うCO2排出量実質ゼロを目指します~

1

ものづくり

ESGマテリアリティ	取り組みテーマ	KPI	2023年度実績	対象範囲	貢献するSDGs
商品、サービスを通じた気候変動・防災への貢献	気候変動の緩和に貢献する商品売上高	960億円（2024年度）	1,012億円	連結	<div><div>9</div><div>産業と資源効率の 高揚をつくろう</div></div> <div><div>11</div><div>住み続けられる まちづくりを</div></div> <div><div>13</div><div>気候変動に 具体的な対策を</div></div>
	気候変動の適応に貢献する商品売上高	180億円（2024年度）	218億円		
	防災に貢献する商品売上高	810億円（2024年度）	718億円		
	メンテ・サービス事業売上高	760億円（2024年度）	799億円		
品質の確保・向上	各社の品質方針に沿った品質目標の達成	———	———		

2

環境

脱炭素社会へ向けた取り組み	CO2排出量(Scope1+2)の削減	FY2019比 10%削減（2024年度） FY2019比 30%削減（2030年度）	FY2019比 ▲7.4%	三和シャッター工業	<div><div>12</div><div>つくる責任 つかう責任</div></div> <div><div>13</div><div>気候変動に 具体的な対策を</div></div> <div><div>14</div><div>海の豊かさを 守ろう</div></div>
水資源の保全	水使用量原単位(工場・事務所)の削減	FY2020比 10%削減（2030年度）	FY2020比 ▲15.0%		
廃棄物の削減	廃棄物排出原単位(工場・事務所)の削減	FY2020比 10%削減（2030年度）	FY2020比 ▲42.0%		

3

人

人権の尊重	人権リスクの特定、除去、防止	人権デューデリジェンスの実施(2024年度)	人権デューデリジェンスの実施 (三和グループ人権方針の制定、 サプライチェーンアンケート実施)	連結	<div><div>5</div><div>ジェンダー平等を 実現しよう</div></div> <div><div>8</div><div>働きがいも 経済成長も</div></div> <div><div>10</div><div>人や国の不平等 をなくそう</div></div>
人材育成	Eラーニング(英語)受講者数	200人(2024年度)	107人	国内グループ	
	通信教育受講者数	1,000人(2024年度)	713人		
ダイバーシティの推進	女性従業員比率	20%(2030年度)	20.7%	連結	
	女性管理職比率	15%(2030年度)	15.5%		
	男性育児休業取得率	50%(2030年度)	27.3%	三和シャッター工業	
安全と健康	肥満率(BMI25以上)	30%(2030年度)	34.2%	国内グループ	
	喫煙率	25%(2030年度)	28.5%		
	ハイリスク者受診率	100%(2030年度)	75.3%	三和シャッター工業	
	有給休暇取得率	55%(2030年度)	54.2%		

4

経営基盤

コーポレート・ガバナンス	取締役会の実効性向上	—————	—————	三和ホールディングス	<div><div>10</div><div>人や国の不平等をなくそう</div></div> <div><div>16</div><div>平和と公正をすべての人に</div></div> <div><div>17</div><div>パートナーシップで目標を達成しよう</div></div>
	取締役会の多様性確保	ボードダイバーシティへの対応(2024年度)	株式保有ガイドラインを制定(2023年4月)		
	ステークホルダーダイアログ実施回数	200回(2024年度)	227回		
コンプライアンス	コンプライアンス研修受講者数	930人(2024年度)	1,503人	国内グループ	
	IT-BCPの運用と継続的改善	—————	—————		

1-1.「ものづくり」のKPI

■ 気候変動の“緩和”と“適応”に貢献する商品

緩和

空調効率を向上させる高速シートシャッターなど、温室効果ガスを抑制して、地球温暖化の進行を食い止める“緩和”に貢献する商品



2023年度実績
1,012 億円

2024年度目標
960 億円

適応

気候変動の進行に備えた防水・耐風商品など、気候変動による被害の回避・低減に備える“適応”に貢献する商品



2023年度実績
218 億円

2024年度目標
180 億円

■ 防災に貢献する商品

延焼防止、安全な区画形成に貢献する防火シャッター、防火ドア、耐火間仕切や、地震時の被害軽減に貢献する耐震仕様商品



2023年度実績
718 億円

2024年度目標
810 億円

■ 防災機能を支えるメンテナンス・サービス

社会インフラとしての防災機能の維持と、住み続けられるまちの実現に貢献するメンテナンス、点検、修理サービス



2023年度実績
799 億円

2024年度目標
760 億円

三和グループは、世界中の工場・倉庫などの 開口部の空調効率を向上させることで、 気候変動の緩和に貢献しています

Europe

上海宝産三和



快速软卷帘门

高速高頻度性能を有するシートシャッター。高速開閉により室内外の熱流出入を抑え空調効率を向上。

Japan

三和シャッター工業

Re-carbo

CO2 削減、省エネルギーに寄与する高断熱商品・サービスを「Re-carbo」シリーズとしてラインアップ



高断熱オーバースライダー

高い断熱性能を有するオーバースライダー。従来の製品ではパネルが凍結するため使用できなかった室内温度0℃以下の保冷倉庫などにも設置可能。



断熱クイックセーバー-TR

断熱性能を有し、高速高頻度開閉に対応するシートシャッター。高い密閉性により外部からの空気の流入を防ぎ断熱性を確保。また断熱材を組み込んだシートを採用することで、シート表面の結露発生を低減。

North America

ODC

RapidFreeze™
Insulated Fabric Doors

冷凍倉庫の開口部等に設置される高速シートシャッター。断熱シートや特殊な密閉構造を採用し、内外温度が大きく異なる環境においても、熱の流出入と結露発生を防ぐ。

NF



優れた断熱性能を有するガレージドア。パネル厚の同じ他のガレージドア製品と比較して、断熱性能が最大17%向上。

Evolution premium sectional garage door with thermal break

モノづくり
部品大賞

2024年“超”モノづくり部品大賞の「生活・社会課題ソリューション関連部品賞」を受賞！

1-2.「環境」のKPI

■ 脱炭素社会へ向けて



■ 目標達成へ向けた施策

Scope 1+2全体の排出量のうち、			
Scope 1			
■ 事業所のガソリン	(FY2023排出量の22%)	▶	エコカー切り替え、
■ 工場のLPG等	(" 17%)		塗装作業の効率化等
Scope 2			
■ 事業所の電気	(" 14%)	▶	省エネ・LED化の推進、
■ 工場の電気	(" 41%)		太陽光発電設備の導入等

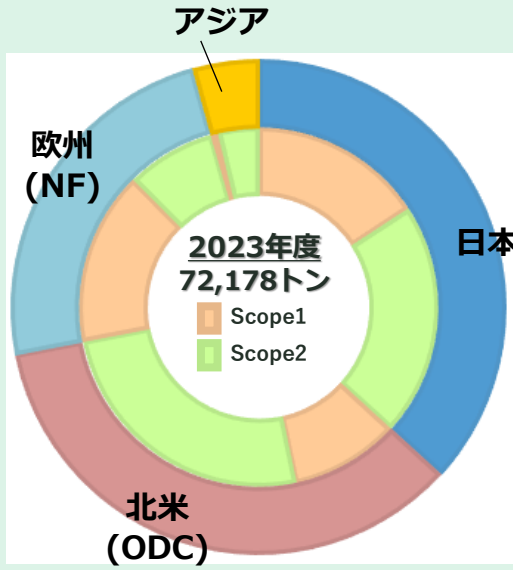
■ 今後の課題

- ・Scope 3の算定範囲拡大 (SSBJ対応)
- ・CO2排出量削減目標の対象範囲拡大
- ・製品別CO2排出量の算定

環境パフォーマンスデータの開示拡充

■ Scope1,2排出量(三和グループ連結/2023年度)

2022年度分より、三和グループ(連結)のScope1,2排出量を算定・開示しています。



Scope1,2排出量実績(2023年度)

適用範囲：三和グループ連結

日本 : 26,553トン
(Scope1:11,362トン/Scope2:15,191トン)

北米 : 25,374トン
(Scope1:7,153トン/Scope2:18,222トン)

欧州 : 17,117トン
(Scope1:11,307トン/Scope2:5,809トン)

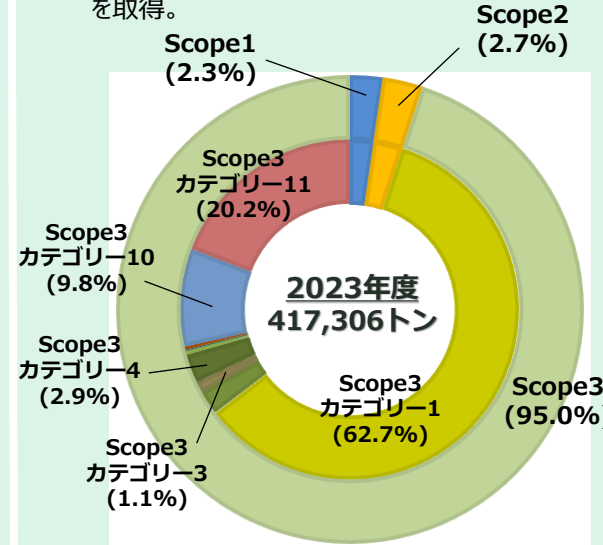
アジア : 3,134トン
(Scope1:527トン/Scope2:2,607トン)

合計 : 72,178トン

■ Scope1,2,3排出量(三和シャッター工業/2023年度)

2022年度分より、三和シャッター工業のScope3排出量(カテゴリー1、3、4)を算定・開示しています。また、2023年度分からはScope3算定範囲を拡大し、新たにカテゴリー2、5、6、7、10、11の算定・開示を行っています。

※カテゴリー1(購入した製品・サービス)、カテゴリー3(Scope1、2に含まれない燃料及びエネルギー活動)およびカテゴリー11(販売した製品の使用 = 販売した製品をお客様が使用することで生じるCO₂排出量)は第三者検証を取得。



Scope1、2、3排出量実績(2023年度)

適用範囲：三和シャッター工業

★印は第三者検証取得

Scope1 : 10,051トン★
Scope2 : 12,067トン★
Scope3 : 417,306トン
(うちカテゴリー1 : 261,663トン★
カテゴリー2 : 10,158トン
カテゴリー3 : 4,642トン★
カテゴリー4 : 11,954トン
カテゴリー5 : 2,046トン
カテゴリー6 : 411トン
カテゴリー7 : 1,340トン
カテゴリー10 : 40,766トン
カテゴリー11 : 84,328トン★)

Scope1+2+3合計: 439,424トン

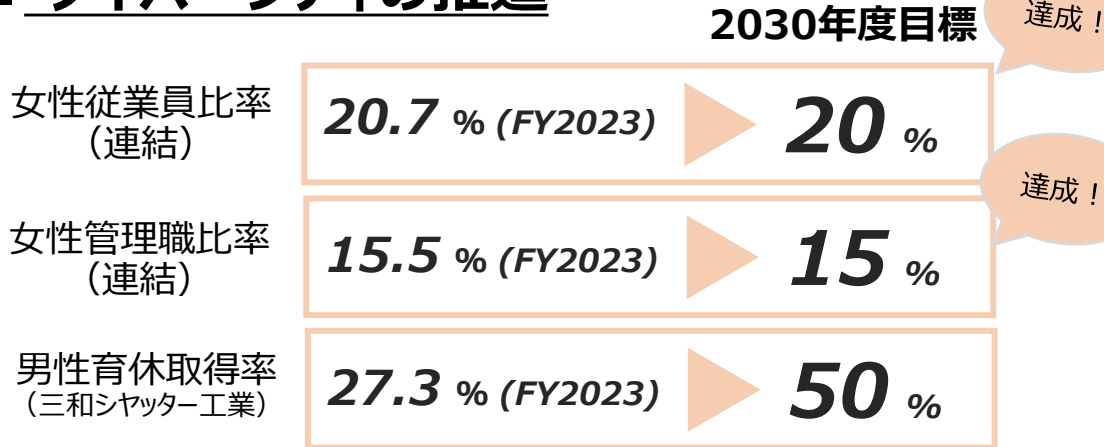
Topics 国内・海外の工場に、太陽光発電設備の導入を推進中！

稼働時期	工場名	パネル総面積(㎡)	発電能力(kW)	年間CO2削減見込量(t)
2021年12月～	三和シャッター太田ドア工場	3,500	710	300
2023年4月～	NF Luton工場(イギリス)	1,566	300	165
2023年4月～	NF Schievano工場(イタリア)	4,798	1,044	746
2023年5月～	NF Guarnizo工場(スペイン)	1,100	156	79.7
2023年6月～	NF Morero工場(スペイン)	670	95	52.4
2023年6月～	上海宝産三和工場(中国)	1,447	302	250
2023年7月～	三和シャッター九州工場	7,016	1,478	460
2024年9月～	三和シャッター静岡工場	4,500	1,014	340



1-3.「人」のKPI

■ ダイバーシティの推進



■ 女性活躍の推進

- 育児短時間勤務制度の拡充(小6まで)
- 子の看護休暇の有給化
- テレワーク環境の整備
- 長時間労働の削減
- 男性社員育児休業の推進
- 女性キャリアアップ研修等

■ グローバル人材、シニアの活用

- グローバル社員の採用、育成
- 海外研修 (ODC、アジア)
- シニア社員の待遇改善
- スキル・ノウハウの伝承と後進の育成 等



■ 健康への取り組み

■ 1次予防 (発生予防)

- 健康情報の発信
- 健康動画Eラーニング
- ウォーキングキャンペーン
- 禁煙サポートプログラム
- EAPサービス 等



■ 2次予防 (重症化予防)

- 人間ドック、生活習慣病健診 (30歳以上)
- 生活習慣病ハイリスク者への再受診、治療勧奨
- 高ストレス者、長時間労働者へのフォロー 等

2024年3月、生活習慣病の重症化ハイリスク者にターゲットを絞ったKPI(2030年度:ハイリスク者受診率100%)を設定。

■ 3次予防 (再発予防)

- 病気治療、メンタル不調からの復職プログラム 等

● 身体やメンタル不調による欠勤(アブセンティズム)の低減

● 心身の問題による業務パフォーマンス悪化(プレゼンティズム)の低減

● 従業員満足度、ワーク・エンゲージメントの向上

健康への取り組みを通じて、

人材確保・定着、生産性向上による安定した事業運営

×

従業員が心身ともに健康に働き、能力を最大限に発揮

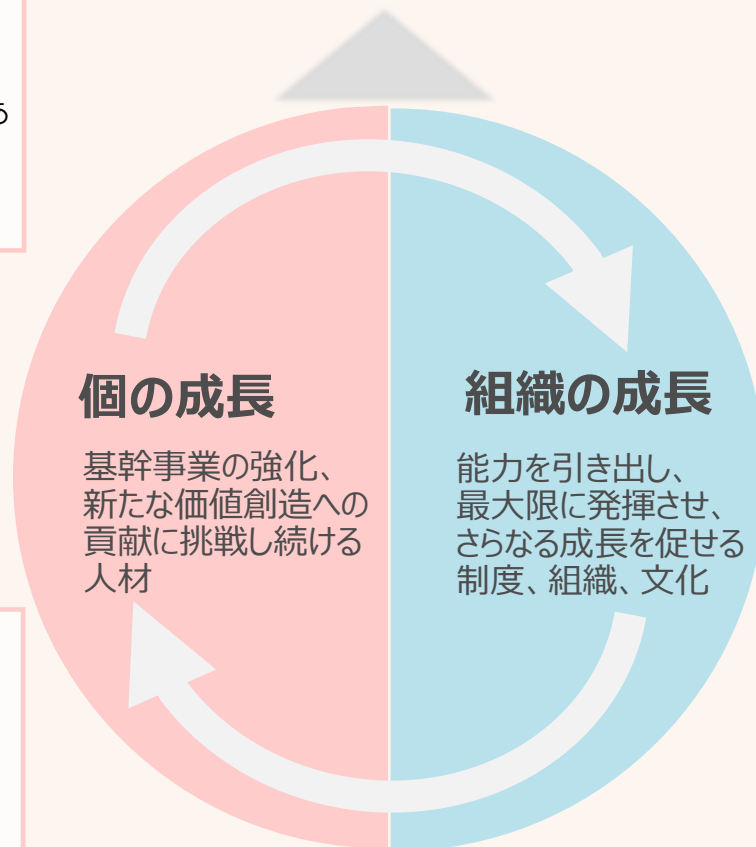
▶ ウェルビーイングの推進 につなげていく。

人的資本への取り組み

労働人口が減少する中、長期ビジョン達成へ向けた事業活動を支えるものは、当社グループの商品・サービスを通じてお客様の安全・安心・快適な暮らしを守り続ける“変わらない部分”と、環境の変化を先取りし新しい価値を創造するために“変えていく部分”の両方であると考えています。そして、それらを自律的に考え実践していくことができる「個」と、働きやすさとやりがいを兼ね備えた「組織」が共に成長することで、企業価値を最大化できると考えており、様々な施策推進や仕組みづくりに取り組んでいます。



持続的な企業価値の向上



三和経営塾



2002年度より開講した、三和グループの経営幹部育成のための独自の研修制度である“三和経営塾”。各部門のリーダーとして会社を支える人材を多数輩出しています。

社内報、グローバル報

季刊の社内報に加えて、イノベーションを促進するためには日米欧アジアの連携が欠かせないという考えから、グローバル報「GLOBAL SANWA」を発刊しています。



施工技術者の育成



施工技術者の育成強化を目的とした専門の研修施設を2008年から開設し、施工品質向上、施工技能のスキルアップを図っています。

社内報奨・表彰

業績優秀者への表彰のほか、特許等登録表彰式を毎年実施し、知的財産に対する従業員の意識の高揚・啓発を図っています。



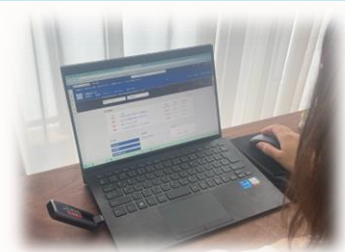
女性社員向けキャリアアップ研修



社歴10年以上の女性社員を対象に、キャリア意識の醸成とモチベーション向上を目的に、2022年度より実施しています。

テレワークの推進

テレワークの積極活用を進め多様な就業環境を創造することで、生産性の向上、優秀な社員の離職防止と確保に努めています。



1-4.「グループの経営基盤」への取組み

■ ガバナンス強化の変遷

2000年	執行役員制度の導入 社外監査役（1名）選任	
2003年	グループ経営戦略委員会設置 国内事業・海外事業PDCA会議 （現 地域別PDCA会議）設置	
2005年	グループCSR推進会議設置	
2006年	社外監査役（2名）選任	
2007年	持株会社体制への移行	
2008年	社外取締役（1名）選任	社外取締役比率 10.0%
	監査等委員会設置会社へ移行	
2016年	経営会議設置 社外取締役（3名）選任	社外取締役比率 27.3%
2021年	指名・報酬委員会設置 サステナビリティ委員会設置 個人別の役員報酬等の決定方針 （譲渡制限付株式報酬に変更）を決議	
2022年	女性社外取締役（1名）選任	社外取締役比率 40.0%
2023年	株式保有ガイドラインを制定	
2024年	指名・報酬委員会の委員長を社外取締役に	社外取締役比率 44.4%

■ 取締役の報酬等

● 報酬等の割合に関する方針

基本報酬 (45%)	:	業績連動報酬 (40%)	:	非金銭報酬 (15%)
---------------	---	-----------------	---	----------------

● 業績連動報酬に関する方針

個別取締役ごとの 業績連動報酬 (算式)	=	ポイント数	×	ポイント単価	×	個別評価
ポイント数		役位別に設定				
ポイント単価		前年度ポイント単価 × 前年度比増減率 × 増幅係数				
個別評価		±25%				

● 指名・報酬委員会

- ・2023年度は全2回開催。出席率は100%。
- ・全委員5名中、社内取締役2名、社外取締役3名。
- ・委員長は社外取締役。

■ 株式保有ガイドライン

2023年4月1日、三和HDの取締役（社外取締役、非常勤取締役および監査等委員である取締役を除く。）に関する、株式保有ガイドラインを制定。

株式保有ガイドライン

各取締役は以下の基準額に応じた自社株式を保有することに努めることとします。

会長・社長・相談役：当該役位就任後4年以内に基本報酬（年額）の2倍

その他取締役：取締役就任後4年以内に基本報酬（年額）の1倍

■ 取締役会スキル・マトリックス

	氏名	企業経営	業界知識・ 業界経験	グローバル経験	営業 マーケティング	製造・技術・ 開発・品質	ITデジタル	財務・会計金融	人事・労務・ 人材開発	法務・リスク マネジメント・ コンプライアンス
取締役 （監査等委員である取締役を除く）	高山 靖司	●	●				●	●	●	●
	山崎 弘之	●		●			●	●	●	●
	道場 敏明	●	●	●	●			●		
	高山 盟司	●	●		●	●		●	●	
	横田 正伸 <small>社外 独立</small>	●		●		●			●	
	石村 弘子 <small>社外 独立</small>	●		●	●		●			
監査等委員である 取締役	在間 貞行		●					●	●	●
	米澤 常克 <small>社外 独立</small>	●	●	●	●					
	五木田 彬 <small>社外 独立</small>							●	●	●

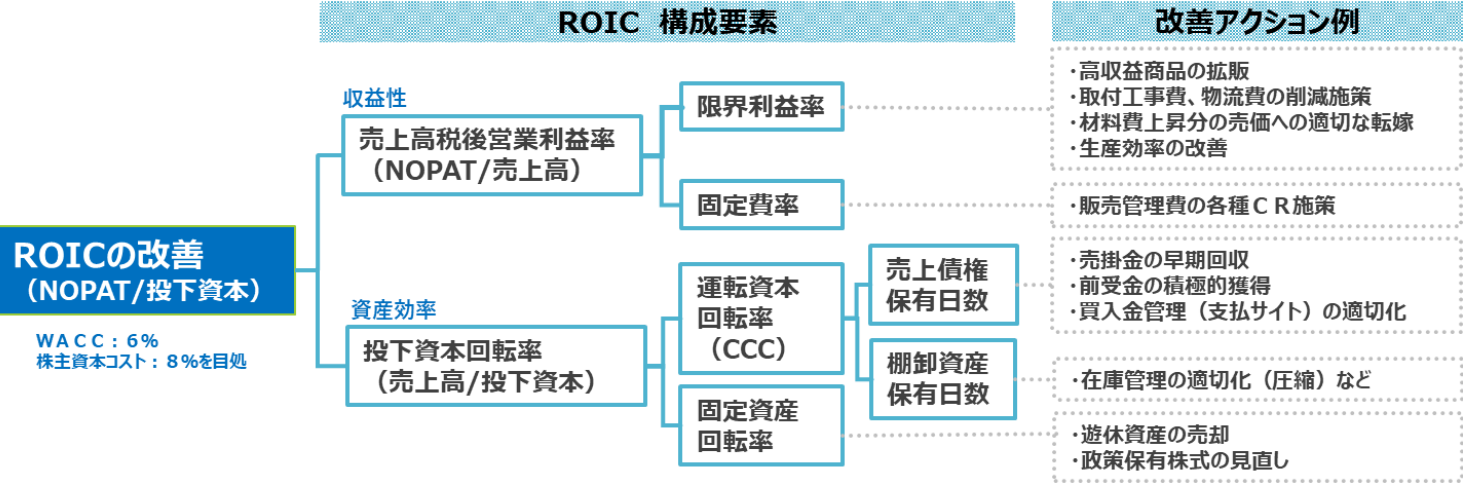
（注）上表は取締役が有するすべての能力・見識・経験を表すものではありません。

■ 期待されるスキル

企業経営	企業において代表取締役または代表取締役に準ずる幅広い管掌範囲を持つ役員経験を有していること。	ITデジタル	デジタル技術を活用し、事業と業務オペレーションの変革、効率化を推進するための知見を有していること。
業界知識・業界経験	業界での知識、経験を活かし、当社の成長に寄与するマネジメントスキルを有していること。	財務・会計金融	成長投資、健全な財務、株主還元のためのバランスのとれた経営基盤を構築するための財務・会計知識を有していること。
グローバル経験	日本国外でのビジネス経験、またはグローバルに事業を展開する会社のマネジメント経験があること。	人事・労務・人材開発	経営戦略と連動した人材育成等、人的資本経営に関する執行状況を監督し得るスキル・経験を有していること。
営業マーケティング	変化の激しいビジネス環境の中で事業機会を創造する先見性を有していること。	法務・リスクマネジメント・コンプライアンス	法務・企業統治・リスク管理の観点から迅速かつ適切に対応しステークホルダーからの信頼を確保するための知見を有していること。
製造・技術・開発・品質	顧客からの信頼を獲得するための、ものづくり（製造、技術、開発）と品質を確保するための知見を有していること。		

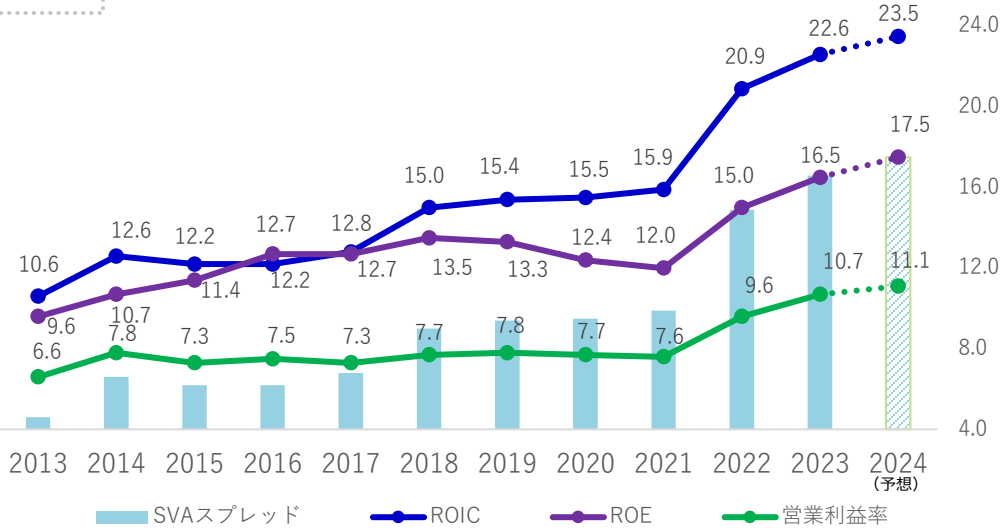
2. ROIC経営について

- ・2001年から当社独自の経済的付加価値指標としてSVAを導入し、継続的に資本効率改善に注力
- ・下記改善アクションを各拠点で展開し、資本コスト経営の浸透によるROICの改善を図る



・SVA = NOPAT-投下資本×WACC
・ROIC = NOPAT / 投下資本 × 100
※ SVA、ROICで用いる投下資本は、現金および現金同等物、投資有価証券を除いて算定
・SVAスプレッド = ROIC - WACC (6%)

主要指標	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想
SVA (※1)	269億円	322億円	364億円
ROIC (※2)	20.9%	22.6%	23.5%
ROE	15.0%	16.5%	17.5%
自己資本比率	54.4%	57.7%	59.0%
D／Eレシオ	0.20倍	0.16倍	0.15倍
配当性向	38.7%	39.8%	40.0%
PBR	1.3倍	2.2倍	—
PER	9.5倍	13.7倍	—



3. 外部からの評価

三和グループのサステナビリティへの取り組みや情報開示の姿勢が社外から評価され、国内外のESGインデックスの組み入れや様々な賞を受けるなどの評価を受けている。

ESGインデックスへの選定		主な受賞・評価	
<div>初選定</div> <div>MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数</div> <div>2024 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数</div> <div>MSCI ESG RATINGS</div> <div>AA</div> <div>CCC B BB BBB A AA AAA</div> <div>評価アップ</div>		<div>CDP2023気候変動「A-」評価</div> <div>CDP DISCLOSER 2023</div>	<div>2024年度 日経サステナブル総合調査 SDGs経営編 ★3.5</div> <div>NIKKEI SDGs</div> <div>経営調査 2024 ★★★★★</div>
<div>FTSE4Good Index Series</div> <div>4年連続</div> <div>FTSE4Good</div>	<div>FTSE Blossom Japan Index</div> <div>4年連続</div> <div>FTSE Blossom Japan</div>	<div>大和インバスター・リレーションズ 2024年インターネットIR表彰「優良賞」</div> <div>Internet IR 優良賞 2024 Daiwa Investor Relations</div>	<div>日興アイ・アール 2023年度全上場企業ホームページ 充実度ランキング 総合・業種別「最優秀企業」</div> <div>企業ホームページ 最優秀サイト 2023 日興アイ・アール 業種別部門</div>
<div>FTSE Blossom Japan Sector Relative Index</div> <div>3年連続</div> <div>FTSE Blossom Japan Sector Relative Index</div>	<div>S&P／JPXカーボン・エフィシエント指数</div> <div>S&P/JPX カーボン エフィシエント 指数</div>	<div>Institutional Investor誌 The 2024 All-Japan Executive Team Rankings（建設部門）</div>	<div>建設部門 2 位</div> <div>Best CEO 1位</div> <div>Best Company Board 1位</div> <div>Best ESG Program 2位</div> <div>Best IR Professional 1位</div> <div>Best IR Program 1位</div> <div>Best IR Team 2位</div>

THE INCLUSION OF Sanwa Holdings Corporation IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF Sanwa Holdings Corporation BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.